

平成30年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	宮前区第1グループ(宮崎・有馬・野川)	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新九子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

	H29		H30		H29		H30		
	①登録者数	②年間延べ利用者数	①登録者数	②年間延べ利用者数	①登録者数	②年間延べ利用者数	①登録者数	②年間延べ利用者数	
利用実績	1 宮崎こども文化センター								
	①登録者数	47,731人	51,008人	②年間延べ利用者数	1,661団体	1,853団体			
	2 宮崎小学校わくわくプラザ								
	①登録者数	486人	523人	②年間延べ利用者数	33,943人	37,052人			
	3 宮崎台小学校わくわくプラザ								
	①登録者数	380人	420人	②年間延べ利用者数	22,108人	25,583人			
	1 有馬こども文化センター								
	①登録者数	27,773人	27,421人	②年間延べ利用者数	374団体	406団体			
	2 西有馬小学校わくわくプラザ								
	①登録者数	465人	476人	②年間延べ利用者数	25,727人	26,705人			
	3 有馬小学校わくわくプラザ								
	①登録者数	164人	171人	②年間延べ利用者数	11,195人	13,128人			
4 鷺沼小学校わくわくプラザ									
①登録者数	438人	481人	②年間延べ利用者数	27,500人	30,019人				
1 野川こども文化センター									
①登録者数	45,215人	43,192人	②年間延べ利用者数	415団体	420団体				
2 西野川小学校わくわくプラザ									
①登録者数	191人	194人	②年間延べ利用者数	8,299人	8,569人				
3 野川小学校わくわくプラザ									
①登録者数	274人	275人	②年間延べ利用者数	15,398人	17,575人				
4 南野川小学校わくわくプラザ									
①登録者数	210人	202人	②年間延べ利用者数	14,647人	13,215人				
収支実績	単位:円								
	1 収入								
	指定管理料	195,107,495							
	2 支出								
人件費	174,049,923								
管理費	12,885,805								
事務経費	8,772,915								
その他経費	11,126,797								
合計	206,835,440								
3 差引	-11,727,945								
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。								

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	3	6
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由)	・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・宮崎こども文化センターでは、児童への積極的な声かけやイベント周知を行うことにより、日常的な来館者数の増加だけでなく、運営協議会との共催事業である「納涼祭」や「さんままつり」といったイベントでも前年度に比べて参加者数が増加している。 ・有馬こども文化センターでは、老人いこいの家との連携事業として、従来からの昔遊びや囲碁・将棋の他、新たに「じゃがいもほり」や「たなばた」を実施し、多世代交流を促進するとともに、有馬老人いこいの家利用者がこども文化センターを来館することで大勢の方にこども文化センターを知ってもらう契機となった。 ・西有馬小学校、有馬小学校、鷺沼小学校の各わくわくプラザでは、スタッフが自ら企画・立案して、新たな取組として、横浜市立大学医学部看護学科の方を講師に招いて「いのちの授業」を実施した。胎児の心音を聞いたり、模型を使って赤ちゃんの重さを感じたり、おむつ交換や妊婦体験をしたりと、子どもたちに五感を使った触れ合いを通して命の重さを実感してもらった。				
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	3	6
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
	保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	4	4
(評価の理由)	・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努めたほか、苦情等への対応も適切に行われている。 ・特別な配慮を必要とする児童に対して、適切な対応が図られている。具体例として、他の利用者に対して障害に対する理解と受容を促す声掛けを行う一方、本人に対しては保護者を通じて、利用方法や見守り方についての話し合いを重ねるなどのきめ細かい対応を行った結果、他の利用者と一緒に遊ぶことができるようになるなど、児童の処遇向上が図られた。 ・学校及び行政機関との連携について、有馬こども文化センターでは、「ちびっこランド」事業で協力している保育園が2園から4園と増えており、野川こども文化センターでは、「こ文DEハロウィン」の訪問先を増やしたいという子どもたちからの意見をもとに、近隣の歯科医院とコンビ二2件を連携協力先として、訪問先を増やしている。 ・施設・事業の広報について、ホームページや各種たよりの配布以外に、かわさき子育てアプリでの広報、地域情報誌への掲載、かわさきFMの出演などによって、機会を捉えた積極的な広報を行った。また、野川こども文化センターでは、たよりに配布先以外の利用者や近隣住民、いこいの家利用者向けに、行事案内のチラシを年齢ごとに複数のサイズで作成し、コミュニケーションを取りながら直接手渡しするなど工夫をこらした広報活動を行った。 ・運営協議会の実施について、運営協議会が設置され、事業計画どおりに開催されている他、有馬こども文化センターでは、運営協議会主催でダンボール迷路を親子で組み立て遊ぶ行事を実施した。 ・保護者懇談会について、懇談会が事業計画どおりに開催されている。また、西野川小学校わくわくプラザでは、保護者懇談会で出された保護者の要望に応じて、和式トイレが使えない児童のために、小学校と調整し、プラザ室の近くにある小学校の洋式の多目的トイレをわくわくプラザでも使用できるようにするなど、利用者サービスの向上につなげた。				

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 職員の研修体制については、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化して管理し、職員が閲覧出来る等、共有化の仕組み作りが出来ている。また、有馬中学校の教諭に講師を依頼して「中高生対応研修」をグループ研修として実施したり、特別な配慮を要する児童への対応について、わくわくプラザごとに巡回相談員による研修を実施したりと、グループや施設の実情に応じた研修を行い職員の資質向上を図っている。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	4	4
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
		災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、こども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。特に宮崎こども文化センターでは、ベビーカーが段差を上りやすいようにスロープを設置したり、個室トイレに荷物かけフックを取り付けたり、たくさんある遊具や保管箱を色分けして整理したりと、利用者の意見を取り入れながら工夫をこらした補修等を行い、市民サービスの向上につながっている。 利用者の安全確保については、法人作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、各事例の館長会議での共有及び各館での事例検討会の開催により議論を重ね、職員等の意識向上を図っている。 防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	66	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

市内20グループのこども文化センター及びわくわくプラザの指定管理を行うスケールメリットを活かし、効率的・効果的な事業運営を行っている他、全館・全区合同事業の実施、経験や役割に応じた計画的な研修実施によって職員の資質向上を図り、また研修内容・事故状況等の情報を全館で共有するなどにより、安定的で良質なサービス提供を行っている。

また、老人いこいの家との連携事業において新たな取組を積極的に実施するとともに、近隣住民や保護者OB・OGとコミュニケーションを取りながら意見収集や広報活動に努め、地域に根差した事業を行っている。さらに、利用者の意見や要望を踏まえて、施設設備の補修や改修を適切に行っており、利用者へのサービスの向上につながっている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもの顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、こども文化センターの中学生利用者数が前年度に比べて減少していることから、中学生の利用増加に繋がる取組をより積極的に行うことを期待している。また、より一層利用者の安全を確保するために、他施設や類似施設等でのヒヤリハット事例等の検討を各施設単位で行い、対応策を立案し職員間で共有する等、さらなる安全確保の取組を行うことが望ましい。